

学校経営ビジョン

社会と世界に関心をもち、人生をよりよく生きる力を育むために、「学び楽しさを知り、自ら進んで実践する教育」を学校経営の基調とし、小規模校の特性を生かした個に応じた指導の充実及び社会性を育むための集団活動の充実を通して、人間力あふれる子どもの育成に努め、「一人一人の個性を尊重し、誰もが楽しく成長できる学校」を実現する。

※ 評定は「4は期待以上」「3はほぼ期待通り」「2はやや期待を下回る」「1は改善を要する」

ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段		自己評価結果(○は成果、●は課題)	評定	学校運営協議会委員の意見等
主体的に学び、自分を高める児童の育成	1 子どもが主役の授業を意識した授業改善を全職員が行い、「わかる・できる喜び」を味わわせ、「進んで授業に取り組んでいる」と80%以上の児童が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高崎地区小中一貫教育の全体研修会では「協働的な学び」や「個別最適な学び」「Figjamの活用」等の手立てを入れた本校の授業が評価された。 ○ 「進んで授業に取り組んでいる」と答えた児童は98%だった。 	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童数が減少している今、個別に指導して下さるのでよいと思う。 ● 少人数での授業で個に寄り添った授業を行っていただけるとよいと思う。 ● アクティブラーニングの言葉通り、議論する時間を多く設ける授業展開が今後必要になってくる。
	2 夢や希望をしっかりともち、自分のできること・できるようになったことを自分で把握し、自ら進んで基礎・基本の定着を図り、国語・算数・理科の単元テストの学級平均を80点以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夢や希望をもっている児童は83%であった。 ○ 国語は5つの学年が、理科は全学年(3年以上)が、平均80点以上だった。 ● 算数は2つの学年のみ、平均80点以上だった。 	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生方の指導の成果だと思う。 ● 学力テストの点数も大事だが、どこを間違えているのか、どこが苦手なのかを個別に深掘りできたらといいと思う。
	3 疑問点などを調べたり学習の定着を図ったりする際に、積極的にICTを活用させ、「タブレットが自分を高めるのに役に立っている」と80%以上の児童が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「タブレットが自分を高めるのに役に立っている」と答えた児童は100%だった。 	3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットを使いこなせていると思う。
互いを認め合い、誰とでも協働できる児童の育成	1 コミュニケーションの基本として元気のよい挨拶や感謝の気持ちを伝えることを励行し、「進んで挨拶をしている」と80%以上の児童・保護者・地域の方が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「進んで挨拶をしている」と答えた児童は82%、教職員は100%だった。 ● 「進んで挨拶をしている」と答えた保護者は71%だった。 	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつも元気で気持ちのよい挨拶をしてくれていると思う。
	2 授業や体験活動を通して協働の場を数多く設定し互いを認め合う態度を育て、「友達と仲良くできる」と80%以上の児童が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「友達と仲良くできる」と答えた児童は95%だった。 	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校では、仲良くできいても、やはり自宅の周りでは上下関係で嫌な思いをしている児童がいると思う。学校を離れた場でも変わらぬ接し方ができるとよいと思う。
	3 多くの児童と触れ合い協力して活動する経験を増やすために、高崎ブロック小中一貫教育(TZ学習、全体研修会、共通実践事項等)の推進を図り、児童・教職員の満足度を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ TZ学習(5・6年生は2月実施予定)について「満足している」と答えた児童は94%で、教職員は100%だった。 	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他校の児童と共に学ぶ事ができるのはとても素晴らしい事だし、よい経験になると思う。 ● 課題解決や研究だけでなく、レクリエーションでも活用してほしい。
楽しく成長できる地域に開かれた学校づくりの推進	1 悩み事やトラブルには全職員で早急に対応・解決を図り笑顔があふれる学校づくりを進め、「学校が楽しい」と90%以上の児童が答え欠席0の日100日以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校が楽しい」と答えた児童は90%だった。 ● 11月末現在、欠席0日は68日だった(昨年度は年63日)。 	2. 8	<ul style="list-style-type: none"> ● 欠席0にこだわる理由は何だろうか?「休むこと=悪いこと」と捉えている児童がいまだにいるので「休むことは、悪いことではない」とも伝えて欲しい。心理的理由で休みたくない子、保健室に行きたくても行きづらい子などがいると思う。 ● 悩みやトラブルを抱えている児童に対して、内容や対応の事例を知りたいです。
	2 学校運営協議会との連携を密にし、ボランティア(見守り隊、読み聞かせ、GT等)を活用した活動の場を多数設定し、延べ1000人以上活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアの活用は、GT51人(歯の指導5人、ミシン9人、不審者対応2人、保育園との交流2人、親子クッキング22人、読み聞かせ10人、TZミーティング1人)、あいさつ運動55人、見守り隊272人、PTA奉仕作業205人、元気田56人、学校運営協議会拡大委員会13人、家庭教育学級45人で697人だった。 	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな授業で、地域の方にお声かけをして頂き、その方も楽しかったと喜んでもらえ、とてもすばらしいと思う。
	3 学校便り(年20回以上発行)やHPの更新(アクセス数年5万以上)を行い、学校の楽しい授業や行事の様子を家庭や地域に発信し、連携強化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11月末現在、学校便りは27回発行した。HPアクセス数は438558で、4月1日324578から約114000増えた。 	3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校便りがとても楽しみです。